



ななほ

市民の友

第695号 毎月1回発行
2008年(平成20年)
12月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2008(平成20)年10月末現在	
総人口	316,322 (2,221)
男	152,497 (1,145)
女	163,825 (1,076)
世帯数	132,685 (1,377)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	94,375
真和志	104,308
首 里	58,027
小 禄	57,391



子どもの笑顔が輝くまちに

テンブス子ども劇団第1回公演

小学3年生から6年生の児童18名で構成された「テンブス子ども劇団」の第1回公演「このまちだいすき」が文化の日の11月3日(月)、那覇市ぶんかテンブス館で上演されました。今回の公演は、市の中心商店街やその周辺地域の活性化を目的に、三世代交流と地域連携、そして市民協働の視点からの劇を創作し、子どもを主体とした劇団活動を展開するテンブス子ども劇団育成事業として、初めての上演となりました。

「このまちだいすき」は、壺屋や牧志の市場周辺を舞台に、学校行事の音楽会の成功に向けて団結する子どもたちの姿を描いたストーリー。

その姿から、大人たちが、まちに暮らす人々の絆とつながり、子どもたちと力を合わせた取り組みが、自分たちのめざす理想のまちづくりにつながることに気付くまでを、まちの歴史・文化・生命の大切さを織り交ぜながら展開していく創作劇です。舞台では、ミュージカル女優の多岐川美子さんから、厳しい演技指導を受けてきた子どもたちが、演技だけでなく、元気いっぱいダンスや歌を披露すると、立錫の余地もないほど会場を埋め尽くした観客から盛んな拍手が送られました。

娘さんが出演者の友人ということとで、観賞に訪れたという男性は、「みんなイキイキとして、とても素晴らしいかった。今日は、子どもたちからパワーをもらいました。大人も頑張らないとね」と感心していました。

主な紙面

- 私たちエコライフサポーターがみなさまのエコライフをサポートします 2
- 平成21年度保育所入所児童募集 3
- 平成20年を振り返って 4・5
- 情報PACK 6・7

協働のまちづくり つむぎ 那覇を紡ぐ

④



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。

平成20年6月から、健保組合などの医療保険者に対し、40歳から74歳までの被保険者(本人)および被扶養者(家族)に「特定健診・特定保健指導」を実施することが義務づけられました。これは厚生労働省による医療制度改革の一環で、腹囲やコレステロール値などを測定するメタボリック症候群(内臓脂肪型肥満)予防に重点を置き、メタボ該当者や予備群を対象にした保健指導を行い、現在、死亡原因の多くを占めている生活習慣病を予防するとともに、これに関連して、年々増加する医療費の抑制と適正化を図ることを目的としています。

力を合わせ 健康都市「那覇」を

締結し、特定健診の受診率向上に取り組むことになりました。市でも、今年の5月から事業所への受診呼びかけや自治会説明会などの広報・啓発事業を行ってきましたが、6・8月の受診率が5%と結果は芳しいものではありませんでした。

そのような中、管理士会からの支援申し出は、受診率向上への効果だけでなく、「協働によるまちづくり」の観点からも、非常に意義深いものがあります。

管理士会の宮城康三郎会長は、「健康に勝る宝なし。予防に勝る治療なし。市民の健康と幸せを願って、市とともに、健康都市「那覇」を目指して推進していきたい」と決意を述べました。

管理士会では、真和志地域の自営業者や事業所を個別訪問し、未受診者・受診の呼びかけを行います。



協働のまちづくり事業協定書締結式で翁長市長、與儀副市長と記念写真に収まる宮城康三郎管理士会会長(左)

本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。

お気づきの点がありましたらお寄せください。
☎862-9942 秘書広報課

再生紙を使用しています。